



2003年8月10日(日) 富士山に登りました。といっても、登ったのは五合目まで、それも河口湖駅から富士登山バスで50分です。ここから、浅間神社へ下る「富士山吉田口登山道ハイキング」を行いました。富士登山の季節で賑わう五合目、そして、山頂登山への道とほんの少し重なるコースで、これから山頂を目指す人や山頂から下りて来た人を見ていると“ここから下るだけなんて”という気持ちになってしまいます。ですが、“無理は禁物”山頂へ上り6時間・下り3時間で“健脚な人にお勧め”のコースなのです。

登山道と下山道の分岐では、人の多い山頂への道へ目がいってしまい、なんだか顔が上向き加減で誰もいない下方向の道へ。“ちょっとさびしなぁ...”と思いましたが、同じようにこの道を下る人もいれば、ファミリーハイキングで五合目まで行ってバスで帰る人、下から全て自分の脚で歩いて山頂を目指す人、富士山の麓でのご狩りを楽しむ人、いろいろな人に出会います。そういえば、行きの電車で乗り合わせた女性は、富士山の五合目あたりを適当に散歩して帰るような話でした。

日本人なら誰もが登りたいという“富士山”。その気持ちがあれば楽しみ方はいろいろありそうです。私たちは、昔の(?)登山道を下りました。



## 富士登山電車？

心配していた台風が土曜日に通過して、誰もが安心する快晴です。

朝、JR 八王子駅横浜線ホームには、小野さん、宮部夫妻、横山さん、町田が集合します。予定通り、7時37分の高尾行きに乗ります。高尾駅では、いつものあわただしい乗り換えが... (たくさんのハイカーが階段を我先にと上り、線路の反対側のホームの電車に乗るのです。待ち時間2分) と思ったら今回は、到着したホームの向かいに河口湖行の電車がいました。しかも、空いている！なんでだろう？

4人掛けのボックスシートに小野さんと宮部忠和さん、その横の2人掛けシートに横山さんと町田が、同じ側のドアをはさんで2人掛けシートに宮部香与子さんが座りました。小野さんたちのボックスシートに乗り合わせた女性は、私たちと同じように登山バスで富士山五合目へ行き、時間の許す限り散策してバスで帰るそうです。宮部香与子さんの前に座った男性は、車内で富士山の地図を取り出してじっくり見ていました。大月から富士急行線に入り、しばらくして富士山が確認できたものの予想以上に雲の中でした。しかも、なんとこれがこの日富士山を眺める最初で最後だったのです。

## 問題はトイレ

河口湖駅には9時25分に到着します。車内で乗り越し精算を終えていたので改札はスムーズでしたが、問題はトイレでした。これが



ら約1時間のバス、トイレが心配です。この時の河口湖駅のトイレはそんな人の集まりですから、もちろんトイレは混み、バスの発車までは10分を切ります。バスは9時35分、次のバスは10時10分、まあどちらでも...。乗客が多い場合は、随時増発するはずのバスということでしたが、増発するバスが無く、立って行くか次のバスにするかという選択を迫られ、もちろん(?)立って行くことにします。

出発して間もなく“富士スバルライン”に入ります。“富士スバルライン”は8月9日から18日までの間、マイカー規制が行われているため、空いていて快適です。マウンテンバイクやロードレーサーが多いのには驚きました。約30キロをひたすら上り続けるのですから大変なことです。暑い中、休憩しながら6時間以上はかかるでしょう。下りは、ノンストップで1時間足らずかな。

## 日本一高い場所の観光地

バスは約50分で五合目に到着しました。寒いというほどではありませんが、涼しい。そして、なんととも活気にあふれていて、



気分は浮き浮きしてきます。真面目な登山者ばかりではなく、それこそ電車で乗り合わせた女性のように少し散策して帰るという観光客が多いようです。夏休みで家族と遊びに来た子どもたちも楽しそう。小御岳神社で下山の無事をお祈りして、出かけようというところで小野さんは、お腹が空いたようです。標高2305メートルの山の上とは信じられないような立派な建物の中はお土産屋と食事処が並んでいます。そんな雰囲気刺激されて、小野さんはそば屋へ。その他の方々はそば屋の前の展望台でここ五合目の風景を味わいます。

## 鬱蒼としたさびしい道

食事を終えた小野さんが出てきて出発。登山道と下山道が重なる平らな道をしばらく歩きます。右手が山頂ですが、雲で山頂はみることができませんでした。一方左手は、下界へのなだらかなスロープで、道無き道を歩いて下ることができそうな錯覚に陥りそうです。しばらくすると、直進する登山道と、斜め左に下りる下山道の分岐が現れます。最初に目指す“佐藤小屋”



は左下方向です。賑わう登山道から別れ、人のいない下山道を進むと舗装路になりました。この舗装路は“滝沢林道”で“中の茶屋”付近で私たちが下りるコースに合流します。前日の台風の影響で、一部土砂の覆われていますが、通過するには問題ありません。右上手に“佐藤小屋”を確認して、さらに舗装路を下ると、車止めのゲートがあり、ゲートの手前左側に細い下山道がありました。下山道入口では、私たちと同じようにここを下る女性ハイカー達が食事中でした。“同じことを考える人もいるんだ”と一安心。ようやくハイキングコースらしい道に入ったと思ったらすぐ、再び“滝沢林道”に放り出されてしまいました。林道を50メートルほど下ると左手に下山道が現れました。本来の“吉田口登山道”が“滝沢林道”の舗装のために断ち切られたようです。



## 所々の休憩所は面影ばかり

大きめの石を敷き詰めた下山道は、「箱根旧街道」の石畳の道と似ています。道無き道を歩けるように昔の人の知恵が残っています。男性1・女性2の若者とすれ違います。「どこからですか?」「馬返しからです」次に出会ったのは、きのこ狩りの夫婦でした。スパイク付きの地下足袋で山の中に入り込みきのこを採っているのです。しっとりとした苔生す辺りの雰囲気からして、きのこはかなり豊富にありそう。今度はお母さんと小学生



くらいの子供二人。「頑張るねえ」

こうして、「御座石」に到着しました。山小屋跡があります。休憩所であり宿泊所であり、さらに「五合目焼印所」だった場所です。ここからの展望は素晴らしく、河口湖がはっきりと確認できました。ちなみに「御座石」とは大きな岩の上の浅間神社とのこと。時刻はちょうど12時でしたが、小野さんはそばを食べたばかりだし、歩き出して1時間足らずということで、ここでの昼食はパスです。

御座石を後に鬱蒼とした山道を下ります。30分ほどで三合目の「三軒茶屋」に着きます。“見晴らし茶屋”と看板はあるものの、ここも廃墟。昔は、富士行者の休憩所になっていて、特に早朝麓を出発した行者の多くがここで昼食を摂ったことから「中食堂」として賑わっていたそうです。小屋の前にはベンチがいくつか置かれていて、ここで昼食を摂っているハイカーがいました。ありそうで無いのがトイレでした。宮部さんの奥さんがトイレを探していますが、ここには無く、すれ違ったハイカーに尋ねると「二合目にあったと思いますよ」でも、そのハイカーの仲間は「ないない。馬返しにあるよ」というわけで、トイレを探しての下山となりました。そして、トイレがあったら昼食と。



## 目指すはトイレ!

このあたりから、石畳のような場所が少なくなり、土の露出が多くなります。ちょっと急勾配の土の斜面があったりして、いかにも滑りそう。横山さんは走り抜けましたが、それ以外の方は慎重にゆっくりとクリアしました。今回のコースの中ではここがクライマックスだったかも...? 三合目から25分で二合目に到着します。ここも廃屋。でも、これまでの山小屋の廃墟とは感じが違い、古民家のような立派な雰囲気が残されていました。それもそのはず、この建物は「富士御室浅間神社本宮」で966年建立された富士山中で最古の神社だそうです。ところで、問題のトイレは.....ありません! 時刻は13時。

一合目を目指して(というより目指すはトイレ)下山開始。ここからの道はほぼ直線の下りとなりました。階段あり、石畳あり、土ありと傾斜に応じて変化します。そして頻繁に現れるようになった2





メートル四方の丸太に囲まれた排水溝(?)。これは、丸太に囲まれた部分に深い穴を掘り、石積みすることで、雨水を地表から地下へ流す役割があるそうです。13時30分、一合目到着。ここも廃墟となった茶屋があるもののトイレはありません。



### “おやすみ処”はまさにオアシス

道幅が少し広くなり、周りの木々の高さが増したおかげでさらに薄暗い山道を20分、立派な鳥居を発見。「馬返し」に着いたようです。鳥居の左右には狛犬ではなくお猿が向き合っています。鳥居をくぐると視界が開け、道も整備されていて別世界です。すぐに左側に休憩所がありました。こざっぱりとした建物があり、こざっぱりとした女性が二人「どうぞ休んでいって下さい」今まで茶屋の廃墟ばかり見てきたためか、一瞬ためらいません。話を聞いてみたら、富士吉田市が明治大学の山荘を借りて、吉田口登山道を一人でも多くの人に利用してもらうためのボランティア活動をしているのでした。7月20日から8月25日までの土日とスバルラインのマイカー規制の期間開設しているのです。そして遂にここにトイレがありました。実はこのトイレも富士吉田市が7月から2ヶ月設置しているものということ。13時45分、ここで昼食とも思いましたが、それほど広くないので、私たちが占領してしまうのもなんなので、歩き始めました。



### 昼食は結局午後3時

半ば舗装され車が進入できる道を歩きながら、お弁当を食べられそうな場所を探しますが、適当な場所が見つからないまま約1時間、「中の茶屋」に着いてしまいました。ここは、富士登山の出発点浅間神社と馬返しの中間にあり、江戸時代から今なお続く茶屋です。現在の建物は平成6年に再建されたもの。富士桜の群生地の中にあり、桜の見頃はゴールデンウィークの頃ということです。食事は持参しているので、ビールを注文して、外のテーブルと椅子を借りてようやく昼食となりました。15時30分、出発します。ゴ-



ルの富士吉田駅まではここから1時間30分。しかし、歩き疲れたうえ、ビールまで飲んでしまったので、そんな根性はありません。浅間神社まで1時間がんばって、そこからバスに乗りました。みんな疲れて、この時のバスはとても素敵な乗り物に思えました。いくら払っても惜しくない?





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
宮部香与子	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

